蕪湖とその附近

第百六十回
第十四輯四回

亞細亞大觀

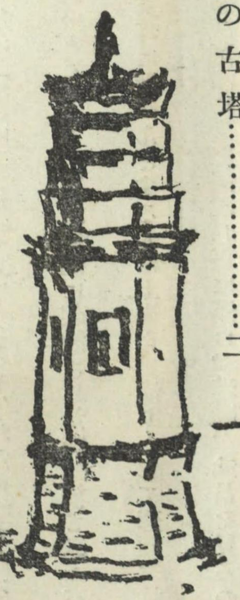
內容

勝虹橋……一
蕪湖郊外の古塔……二
黃山……三
蕪湖のたらひ舟……四
長江の歸帆……五
蕪湖郊外長江の景……六
蕪湖の碼頭……七
蕪湖の風景……八
李家花園……九
穰溪の黎明……十

記事　森田富義

蕪湖とその附近

撮影　島崎役治



大連市山縣通り一三九
發行所　亞細亞寫眞大觀社
電話②六二三五
振替口座七一一八

（毎月一回發行）

版權所有　不許複製
編輯人　大連市山縣通一九三　青山括夫
發行人　同　島崎役治
印刷人　大連市三河町二一　鈴木周哉
發行所　亞細亞寫眞大觀社

蕪湖とその附近

森田富義

安徽省の蕪湖は、長江沿岸にあつて、江南から江北に渡る要津にあたつてゐる。この附近、古來要害の地として、戰戈の巷として有名な城市である。一八七九年、英國との芝罘條約によつて開港された貿易港で、安徽省に於ける內外貿易上の要点となつてゐる。ために、各國は先を競ふてこの地に外交機關を設置して自國の勢力の扶殖を謀つたところである。街は、城內、城外、租界地の三段構へをなし、城內は支那街となつて商賈が櫛比し、城外は支那風、西洋風の大厦高樓が並び租界地には碼頭があつて、小汽船民船等が忙しく出入してゐる。然し、今は日支事變により日本軍の占據領有するところとなつてゐるから、平和確立の曉には、日本人の居を構える者も多くなるだらう。

名所、名物としては、風をはらんだ民船が、長江の小波を蹴つて、出入するの壯觀さと、船着場に雲集するたらひ舟に乘つた乞食の姦しさであるが、風流人士は李家花園に遊んで一日の疲勞を醫しながら、李鴻章の私生活の贅を思ひ、支那官人の豪氣な生活を羨むのである。附近にある黃山は風景絕佳なところで、天起峰、蓮花峰、四仙峰等がもつとも優れた秀峰である。また、麓には、穰溪と云ふ黎明の景の良いところや、嘉慶年間に架設された勝虹橋と云ふ石橋があつて史實にも有名である。だから支那に遊ばんとする人は上海を足溜りとして蘇州、杭州の風景に接し、楊子江を遡つて南京に遊び蕪湖に足を延ばし更に漢口、漢陽、武昌を見るのも一興であると思ふ。以前は日本人の入支を極度に嫌つた國民政府が、支那事變で叩き潰され維新政府が出現し、日本人が自由に出入し活動出來るやうになつたら、風雅を好む文人墨客ならずとも、史蹟調査の學者ならずとも、何等の不安なしに風景を愛でることが出來るであらう。そしてこの地唯一の產物たる白米が、日本內地に輸出されることになり、日支間の貿易も順調に行はれるであらうと思ふ。

勝虹橋は黃山に源を發した溪流に架せられた古橋である。高さ約三丈、廣さ二丈五尺、

府が出現し、日本人が自由に出入し活動出來るやうになつたら、風雅を好む文人墨客ならずとも、史蹟調査の學者ならずとも、何等の不安なしに風景を愛でることが出來るであらう。そしてこの地唯一の産物たる白米が、日本内地に輸出されることになり、日支間の貿易も順調に行はれるであらうと思ふ。

勝虹橋

（安徽省）

勝虹橋は黄山に源を發した溪流に架せられた古橋である。高さ約三丈、廣さ二丈五尺、長さ六十間餘の石築堅固の橋である。嘉慶十五年、次康干孟秋月、時の鎮威將軍が架橋したものと云ふ。この附近、黄山芬嶺で、土地峻嶮で交通不便である。殊に降雨の際は水量多く、流水の奔濤で徒渉は不可能である。だが橋上景觀の美は、遙か北方に黄山東部の山影を望み、附近の清溪と共に風趣豊である。

（印畫の複製を禁ず）

（亞細亞大觀十四輯四回ノ一）

蕪湖郊外の古塔

（安徽省）

蕪湖郊外大平府の咽喉に當るところに小丘があり古塔が立つてゐる。これが有名な金柱關である。何時の世に築造されたか知らないが、兎に角舊い歴史を物語る古塔である。

（印畫の複製を禁ず）

黄山

（安徽省）

黄山は安徽省の名山であると同時に支那での名山である。山中幾多の寺院があり我が日本の朝鮮の金剛山の如く、山容巖塊の奇、溪流等山水の美に富んでゐる。中でも、山中にある天起峰、蓮花峰、四仙峰等は最も秀でてゐて、奇巖は松樹の間に聳えて、雄大なる景觀と、遠く連なる翠巒紫紅の波は屈起して山容の深遠を知らしめるのである。然もその間霞の低く立ちこめたる景勝は筆舌の盡すところでない、文人墨客が、遊んで筆を投げるのも名山なればこそである。（印畫の複製を禁ず）

蕪湖郊外の古塔

（安徽省）

蕪湖郊外大平府の咽喉に當るところに小丘があり古塔が立つてゐる。これが有名な金柱關である。何時の世に築造されたか知らないが、兎に角舊い歴史を物語る古塔である。

（印畫の複製を禁ず）

蕪湖のたらひ舟

（安徽省）

蕪湖に行くと、水面上に面白いものが浮び、人がそれを操つてゐる。これはたらひ舟である。土民はこれを利用して、ヒシの實を取り、或は蓮の花を取り實を取つて街に賣ふが、面白いことには、乞食がこれを利用して、蕪湖碼頭に繫ぐ客船を惱ますのである。一度蕪湖に遊んだ人なら、このたらひ舟を見て、「アーこれだこれだ」と云つて、乞食群に襲はれたことを思ひ出して苦笑するであらう。

（印畫の複製を禁ず）

長江の歸帆

（安徽省）

蕪湖を起点として長江の下流地方南京及上流地方への戒克貿易は頗る盛んなものである寫眞は、貨物を滿載した戎克が帆を上げて歸港の風景である。洋々たる長江上に、川波を蹴る一隻の帆舟の姿は實に雄大感を懷かしむるものである。

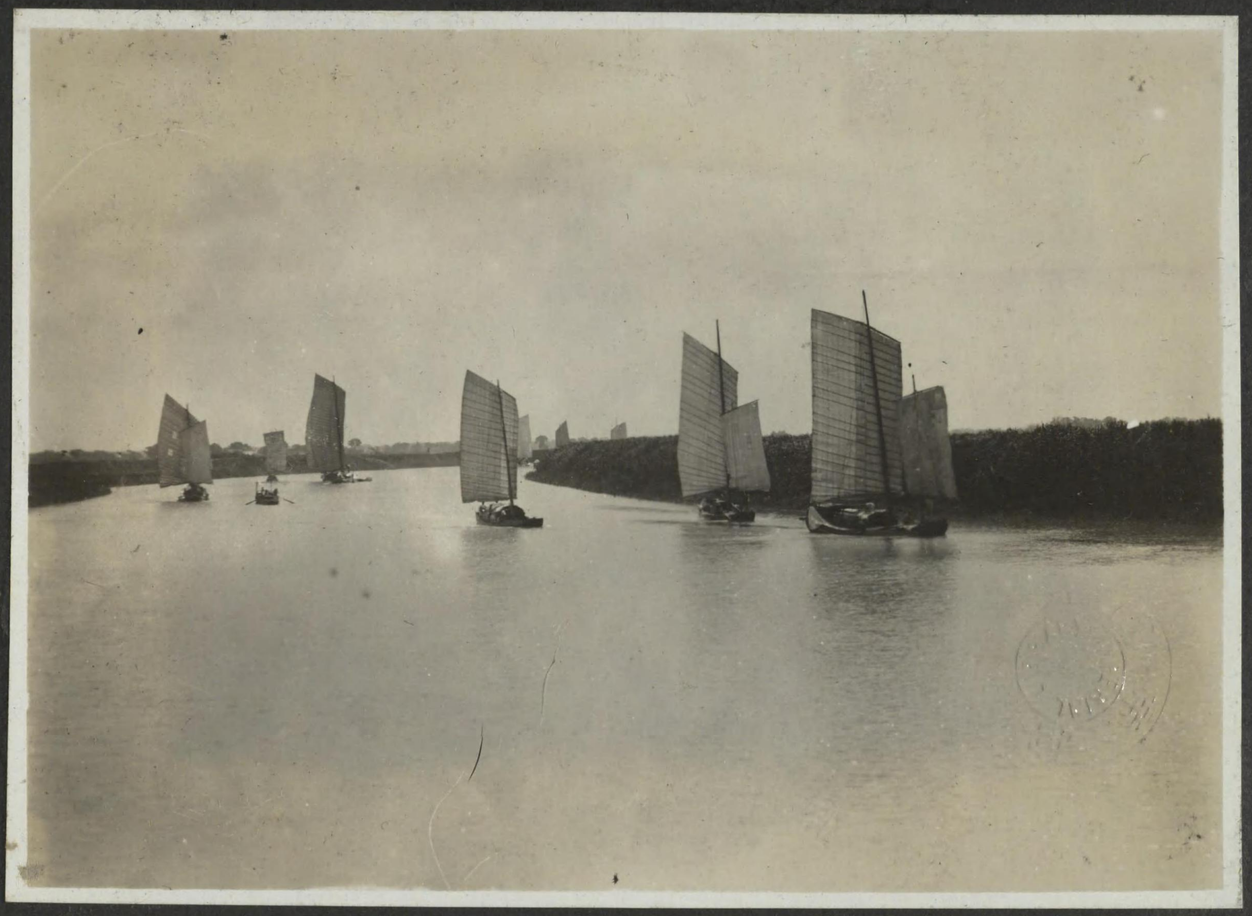
（印畫の複製を禁ず）

湖のたひら舟

（安徽省）

長江にこれが利用されて、この實に其或は蓮の花を取り實を取つて街に賣ふが、面白いことには、乞食がこれを利用して、蕪湖碼頭に繫ぐ客船を惱ますのである。一度蕪湖に遊んだ人なら、このたらひ舟を見て、「アーこれだこれだ」と云つて、乞食群に襲はれたことを思ひ出して苦笑するであらう。

（印畫の複製を禁ず）



蕪湖郊外長江の景

（安徽省）

寫眞は蕪湖郊外長江上の景である。滿帆風をふくみ、荷物を滿積して、歸る舟の賑やかさは全く見物である。これに依つて、蕪湖の民船貿易が如何に盛んであるか知ることが出來る。世人はこの有樣を見て蕪湖郊外長江の歸帆と稱して、江岸に立つて眺めるのである。

（印畫の複複を禁ず）

蕪湖の碼頭

（安徽省）

蕪湖の河港が芝罘條約以來、安徽省唯一の開港場となつてから各國は競ふて領事館を設置して在留民の保護と貿易の振興とを計つて以來貿易市場としての形態を供へ、日を追ふ隆盛を極め、特に英國はこの地を利として長江流域勢力の礎を築いたのであつたが、今度の日支事變で難なく日本の領するところとなつた。寫眞は碼頭に戎克の繫留せる圖であつて。その繁榮のほども察せられるのである。

（印畫の複複を禁ず）

長江の景

（徽省）

民船貿易が如何に盛んであるか知ることが出來る。世人はこの有樣を見て蕪湖郊外長江の歸帆と稱して、江岸に立つて眺めるのである。

（印畫の複複を禁ず）

蕪湖の風景

（安徽省）

寫眞は蕪湖城外李家花園附近の景である。城外の田園近き野趣を含むところで、中央にある水邊には茶亭が浮び、水面上には睡蓮の葉の浮ぶを看る。看客は茶亭に倚り、紙をのばし、筆を執つて、韻を發し、盃をそそいで、興ずるのである。水中の鯉魚また、文人墨客と和して水面にはね、興を添えるのである。六朝以來、風雅人の絶えざるも故なきではない。

（印畫の複製を禁ず）

李家花園

（安徽省）

蕪湖市街の附近には、娯樂場が頗る多い、寫眞の李家花園（李公園）もその一つである。花園は城外大馬路に近き利涉橋畔にある。李鴻章が、在世時に別莊を營んだので李家花園と云ふのであるが後ち一般に開放し散策遊覽の場所に供したのである。園内は廣豁、中に大池があり、夏季荷蓮の花の美は水樓の佳妓と姸を競ふ有樣である。水邊に茶亭あり、楊柳は亭檐に迫つて風流ならずとも嘆息する程で、四時、百花の黎爛は全く天竺の極樂に遊ぶ感がする。

（印畫の複製を禁ず）

景風の

（安徽省）

ばし、筆を執つて、韻を發し、盃をそゝいで、興ずるのである。水中の鯉魚また、文人墨客と和して水面にはね、興を添えるのである。六朝以來、風雅人の絶えざるも故なきではない。

（印畫の複製を禁ず）

穰溪の黎明

（安徽省）

穰溪は黄山へ登る途中にある街であつて、附近は、早旦、黎明の美で有名な名勝地である。寫眞は、某し、支那名勝舊蹟探勝旅行の際、支那人の促めによつて、行を延ばし、旅舍の南京虫に惱まされながら、一睡もせず、早旦を待ちきれず、明星の瞬くころ旅舍を脱け出し、街の近くを流るる河畔に立つたところである。やがて來た黎明に、單彩濃厚の雲影東の空に現はれ、街角の溪流はその彩光を映し轉々と替る妙趣は、天人の畫工を思はせ、その靜寂と神韻は四邊に充ち、嚴肅爽快味は神苑に立つた氣分であつた。因にこの溪流は水源を黄山に發し、長河に合して蕪湖に入る小川である。（印畫の複製を禁ず）

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black